「動物ふれあいウィーク」にぎわう

災害救助犬実演も

青森の「県愛護センター」

飼育マナーに理解を

ゴールデンウイークに合わせ、県動物愛護センター（青森市宮田）で「動物ふれあいウィーク2014」が開かれ、大勢の家族連れらでにぎわっている。6日まで。

同センターなどの主催で、動物愛護や飼育のマナーに理解を深めてもらうのがねらい。

5日はNPO法人北東北捜索犬チームが、災害救助犬とともに災害時に建物に取り残された人を捜す様子を実演した。

災害救助犬は、複数の建物のセットの周囲をまわったうえで、人が隠れたセットの前で立ち止まり「ワン」と鳴いて、中に人がいることを知らせた。

観客はトレーナーの指示通りに行動する犬に感心した様子。人を見つけた救助犬に大きな拍手を送っていた。助け出される役としてセットの中に隠れた横内唯希くん（6）＝青森市＝は「暗いところに隠れていたのに来てくれた。お利口なわんちゃん」とうれしそうだった。

このほか、乗馬体験や犬の散歩体験、動物のお医者さん体験コーナーなどがあり、子供たちの人気を集めていた。

【佐藤裕太】